

県文連ふくおか

題字 / 貫 正 義

平成27年3月

56号



福岡県文化団体連合会

表紙の光景

「僕を書く小説には、なぜか海を舞台にしたのが多い。山育ちだからかな」と、直木賞作家、安部龍太郎さん。県内でも海から最も遠い、奥八女の山里に生まれ育って、初めて見た海が有明海。その大きさに圧倒された、と言いつつ、海へのあこがれが強い。姫神に魅せられて、絶海の孤島・沖ノ島には都合三回も訪れ、思い入れが深い。環玄界灘文化圏の中心に位置して、古代、遣隋使をはじめとして朝鮮半島や大陸との交流に大きな役割を果たし、八万点もの国宝文化財を残した沖ノ島。今、「オール読物」に連載中の小説『遣隋使の姫神』でも沖ノ島は重要な舞台になっているが、島への思いがたっぷりあふれている。

(安部龍太郎文化講演会「神の島『沖ノ島』を語る」。三月六日、アクロス福岡国際会議場)

もくじ

●地域文化芸術フォーラム &リーダー研修会	3	●安部龍太郎文化講演会	14
●文化芸術活動でまちづくり、人づくり	4～5	神の島「沖ノ島」	14
ワールドカフェ	6	福岡文化連盟 博多座上演	15
●第3回常任理事会	7	●第22回ふくおか県民文化祭2014	16～17
●新春のつどい	8～9	芸術体験講座10周年	16
●俳句	10	はぐくもう 文化の和	17
●短歌	11	●宇田川九産大教授 画業55年、退任記念展	18
●平成27年度県民文化大学	12～13	末永直行さんに県地域文化功労者表彰	18
「ふるさと福岡人物伝」	12	榊孝陽さん矯正管区長表彰	18
「知の巨人たち」シリーズⅡ	13	●吉塚だより「文化の力」	19

文化芸術活動で

まちづくり、

人づくり



挨拶をする宇田川理事長

「文化芸術活動で まちづくり、人づくり」をテーマに県文連は一月二十一日、福岡市吉塚の県合同庁舎で地域文化芸術フォーラム&リーダー研修会を開いた。県、県教委との共催で、各地の文化協会・連盟や分野別団体などのリーダーら八十人が参加した。

パネル討論には、北九州文化連盟会長の井生定巳さん、直方文化連盟会長の中村幸代さん、ミリカローデ

地域文化芸術フォーラム

&リーダー研修会

ン那珂川館長の白杵昭子さんの三人がパネリストとして登壇。県民文化スポーツ課企画監の篠原一洋さんをコーディネーターに討論を繰り広げた。

パネリストの三人は、県民文化祭との関わりで繰り広げる、それぞれの文化活動を紹介しながら、地域社

会の活性化に芸術文化がいかに関与しているか、その際、行政と文化団体との協働がいかに大事か、を強調していた。

パネル討論のあと、午後の第二部では「文化の力で活性化」私たちがやれること」をテーマに九大大学院新領域学府客員准教授、加留部貴行さんをファシリテーターにワールドカフェ方式の意見交流を行った。（パネリスト三氏の発言要旨は4～5ページに掲載）

新春のつどい



楽しく、和やかに交流のひととき

県文連の文化力の一つに、さあ今年も前進！二月二十九日、西鉄グランドホテル

に百人が参加して開いた県文連「新春のつどい」は楽しく和やかな懇親の中にも、新たなパワーがみなぎっていた。

戦後七十年と節目の年。県文連の創立二十五周年も間近の二年後で、その先には東京五輪に合わせて「世界文化のハブ」を目指す文化芸術立国二〇二〇年も迫る。いざ前進！

地域文化芸術フォーラム & リーダー研修会

文化芸術活動でまちづくり、人づくり

フォーラムのパネル討論に登壇したパネリストの三氏はいずれも、地域の文化芸術活動の先頭に立ってきたベテラン。豊富な体験を基に熱く語った。続くワールドカフェ方式の意見交換と併せて会場は、これからの「文化芸術活動でまちづくり、人づくり」へ、大きく盛り上がった。

行政と一体となつて



北九州文化連盟 会長

井生 定巳さん

文化連盟は創立五十二年。正会員

が十三団体から二十三団体に。新たに準会員制を設けたら三グループが新規加盟、会員総数は七千九百人に

増えた。

私は劇団「青春座」を主宰して四十二年になるが、文化連盟の活動や経験も踏まえて「文化芸術の振興、

発展は行政と一体となって進めるこ

とが大切」と実感している。だから、

行政の担当者とは懇親の機会も含めて極力意思疎通を図っている。

春の北九州芸術祭がメイン行事だが、

秋の県民文化祭は演劇に特化して、

とくに地域の題材を掘り起こして、

市民の郷土愛につなげるよう心掛けている。

地域から「第一級」を



直方文化連盟 会長

中村 幸代さん

文化連盟は今年、創立六十周年を迎える。この間、林芙美子忌記念講演や作文募集、

諸九尼生誕三百年祭に絡む俳句大会、

長崎街道四百年記

記念事業を行うなど、地域の歴史や文化にちなむイベントを次々に展開してきた。

これによって直方市民が郷土を知

り愛する心を涵養することができたと思う。

その際、私がいとも心がけているのは「地域から日本第一級の文化を創る」ということ。

「文連六十周年」をテーマに、

直方出身、ミュー

ヘン音楽大教授のピアニスト占部由

美子さんと、

チェリスト堤剛さんの

シンフォニックアンサンブルを開催

する。

文化協会、行政と協力



ミリカローデン那珂川 館長

臼杵昭子さん

ミリカローデン那珂川は「那珂川町教育文化振興財団」の運営で、住民の自主的な芸術文化活動を支援するために活動している。

まず、開かれた施設として、町民文化祭などの「場」を提供する。また、芸術文化活動の拠点として、個性豊かな芸術文化の創造、地域文化の継承など多彩な「情報」を発信する。これはカルチャー教室、百を超える講座、音楽、芝居、文化講演会など。

さらに図書館と、「名槍日本号」などで有名な漢詩家「松口月城記念館」もあり地域の情報センターの役割を果たしている。

地域文化を担う文化施設として、住民に愛されるよう心掛けている。文化遺産も豊富な町であり、文化度は高い、と自負している。特に那珂

川町文化協会は活動が大変活発で心強い。文化協会と、行政と協力しあって、豊かな人づくり、まちづくりに尽くしたい。

文化芸術立国中期プラン(概要)

～2020年に、日本が「世界の文化芸術の交流のハブ」となる～

(現在) 「世界に誇る我が国の文化力」を保有
 (例:各地で行われる芸術祭、祭り・郷土芸能、神社・寺院、古民家、創造都市、美術館・博物館・劇場)

我が国の強み
=「国力」

(2020年までの期間) 「国力」である文化力の強化期間
 2020年までに、日本各地の文化力の顕在化、基盤の計画的な強化

量り起こし+育てる+発展



地域を元気に、文化芸術活動で



福岡県民文化スポーツ課企画監
 篠原一洋さん

「地域を元気にする文化芸術活動をさらに活発にしましょう」と呼びかけて締めくくった。

パネル討論をまとめる形で、コーディネーターの篠原一洋・県民文化スポーツ課企画監は、東京オリンピックが開催される2020年に日本が「世界文化のハブになる」とうたった、国の『文化芸術立国中期プラン』を紹介。「地



ファシリテーターの加留部貴行さん



午後からは第二部のリーダー研修会。九州大学大学院准教授の加留部貴行（かるべ たかゆき）さんが進行役（ファシリテーター）となって、グループに分かれ、「文化の力で活性化」私たちがやれること」というテーマで、意見交流（ワールドカフェ）を行った。

第一部の地域文化芸術フォーラムパネリストの井生会長、中村会長、白杵館長も参加。文化を担う文化団体の皆さんや行政の担当者が、加留部さんの「五年後の私たち文化芸術活動は、何を期待されているのでしょうか」という問いかけに参加者全員で考え、自分達ができることは

何かを探った。
また、最後の「大切にしたいキーワード」の問いに「継続は力、まず自分たちががんばる！それが伝えることに繋がる」「伝統文化・古典文化を子どもの頃から体験させる」「文化は人を創り、戦争をなくす！」など貴重な意見が沢山出され、参加の一人ひとりが熱心に議論し、絆を深めた研修会となった。

熱心に議論

絆を深めたワールドカフェ



白熱のワールドカフェ会場

新たに特別個人会員2人 加入

賛助会員1社

第3回常任理事会 アンビシャス運動に協力

平成二十六年第三回常任理事会
が一月二十九日、福岡市大名の西鉄
グランドホテル二階真珠の間で開か
れ、特別個人会員二人、賛助会員一
社の新規加入を承認した。

新加入の特別個人会員は、林田ス
マさんと岡野弘幸さん。林田さんは
県文連副理事長で大野城まどかびあ
館長。岡野さんは県庁県民文化ス
ポーツ課企画監。これで特別個人会

員は四十八人となった。

また、新たに英進館株式会社が加
入して、賛助会員は三十三社になっ
た。ほかに賛助個人会員二人。

このほか県青少年アンビシャス運
動への協力、三月十四日にキヤナル
シティ劇場で開催したミュージカル
「ドラマティック古事記」神々の愛
の物語」実行委員会に県文連の参
加、の二件を決めた。

青少年アンビシャス運動に参加申請

県文連は、県下で練り広げられて
いる青少年アンビシャス運動に賛同
し運動参加団体として参加申請す
る。

青少年アンビシャス運動は「天性
を見出し育成に努めよう」を合言葉
に「豊かな心、幅広い視野、それぞ
れの志を持つ、たくましい青少年の
育成」を目指す県民運動。平成十三
年に始まった。

また「支援の会」は、青少年育成
につながる顕著な活動には財政的な
助成を行う。

青少年アンビシャス運動参加団体

- ・ 県文化団体連合会
- ・ 北九州文化連盟
- ・ 大川文化協会
- ・ 桂川町文化連合会
- ・ 筑前琵琶福岡旭会
- ・ 福岡県和太鼓友輪会
- ・ 川筋太鼓保存会
- ・ 川筋ジャパンマーベラス
- ・ 壱鼓館 ・ 原西太鼓

〔平成27年度理事会日程〕

第一回常任理事会 6月10日
定例理事会 6月17日



26年度 県文連 新春のつどい

交流・懇親の輪



「無法松の一生」を歌う貫会長



百人、筑前琵琶、踊り、カラオケ楽しむ

県文連の平成二十六年
度「新春のつどい」が一月二十九
日夕、福岡市大名の西鉄グラ
ンドホテルに約百人が参加し
て開かれ、親睦の輪を広めた。

長澤幸司副会長の開会の言葉に続
いて登壇した貫正義会長は「遅まき
ながら新年おめでとう」と挨拶。
「ホークスの日本一、画家野見山暁
治さんの文化勲章、軍師官兵衛プー

ム、と二〇一四年の福岡は祝いム
ムだったが、県民文化祭も多く感
動を生んだ。文化の力が心が豊かに
なるのが人間。二〇二〇年の東京五
輪では世界から二千万人も迎えると

「2020年見据えて」

貫 正義 会長

か。福岡も成熟した文化で多くの
人々を迎えたいものです」と決意を
込めて語りかけた。

次に宇田川宣人理事長が「県民文
化祭はオープニングが台風接近で中
止になったが、全体として盛況だっ
た。県民文化大学などの事業も
年々、盛んになっている。今年は戦
後七十年の節目の年。文化のありよ
うが改めて問われる。県文連二十五
周年も近い。ともに前進を」と、乾
杯の首頭を取って懇親に移った。

アトラクションのトップを切っ
て、福岡市無形文化財に指定された

「戦後70年節目の年」

宇田川宣人理事長

筑前琵琶の福岡旭会会長米村旭翔さんが「寿の曲」を演奏。日舞、民踊などが相次ぎ、貫会長もカラオケで「無法松の一生（度胸千両入り）」を披露。ト리는県吟剣詩舞道総連盟会長の豊島栄陽さんが務め、朗々と「祝い船」を歌い上げた。

最後は、吟剣詩舞道総連盟の豊島さん、岩田栄彦さん、森田栄心さんの三人で恒例の博多祝いめでた。特別個人会員の本山道德さんのリードで博多手一本を入れて、締めくくった。

アトラクション出演者

筑前琵琶Ⅱ筑前琵琶福岡旭会会長、米村旭翔▽日舞祝舞Ⅱ筑紫野市文化協会副会長、岡部三代子（芳柳寿々三蒼）▽カラオケⅡ県文連会長（九州電力会長）貫正義▽踊りⅡ川崎文化連盟会長、酒井悦子▽踊り、カラオケⅡ嘉麻市文化協会山田支部事務局長、坂本留里子（若柳瑠璃）、飯塚文化協会頼田会長、池田宏二▽カラオケⅡ太宰府市文化協会会長、高瀬昭登▽カラオケⅡ特別個人会員、川口一幸▽同Ⅱ県文連調査役、古賀透▽同Ⅱ県吟剣詩舞道総連盟会長、豊島栄陽



川崎文化連盟会長の
酒井悦子さん



「寿の曲」を演奏する
米村旭翔さん



西鉄グランドホテル鳳凰の間

閉会の言葉

文化の風吹かせましょう

林田スマ県文連副理事長

高齡化が言われ、県文連も例外ではありません。でも今は、年齢も「7掛け」の時代。百歳でやっと七十歳なんですよ。まだまだ若い。この力とファイトで、福岡県内、至る所に文化の風を吹かせましょう。

俳句

「青嶺」主宰 岸原清行

「青嶺」は平成十三年。「地平」継承。師系は野見山朱鳥、児玉南草。岸原は現在、県俳句協会会長、県文連常任理事、(社)俳人協会評議員を務める。

木曾・飛騨の旅

木曾谷の戸毎に奏づ山清水
「夜明け前」遺稿に朴の花明り
円空の木端の仏眉目涼し
雪溪の連嶺神の如顯るる
夜もあをき飛騨の郷里の一夜酒

「天籟通信」代表 福本弘明

昭和四十年、穴井太が北九州市で創刊。高く遊ぶことを旨とし、自由で個性豊かな集団を目指す月刊同人誌。

春の風

春風や散り時ならば決めている
背筋の衰え春は何かある
春一番予算にはない桶を買う
花冷えの土蔵に眠る発禁本
春風に乗って西洋かぶれの胃

「冬野」主宰 阿比留初見

「冬野」は大正十二年創刊。平成二十六年、池田昭雄の引退をうけて継承する。師系・稲畑汀子、稲畑廣太郎。花鳥諷詠を信条に詩情の深い句をめざしたい。

秋の庭

朝の儀に僧の加はる放生会
魚とある海中展望塔の秋
花葛に風の踊ってある岬
この庭に果つるつもり法師蟬
陶器にもわびさび小石原の秋

「万燈」主宰 林加寸美

昭和四十年江口竹亭創刊。師系高濱虚子、高濱年尾、稲畑汀子。客観写生、花鳥諷詠を理念とする。

梅

梅林をひと巡りして詣でけり
飛梅の見頃は万朶ならずとも
一行詩ほどの花数飛梅に
縁なしと思ひし栄誉梅白し
身に余る佳信畏し梅月夜

短歌

「橄欖」

吾も人も同じ向きへと影を曳くこの不本意に耐えて生きゆく
表情なく勤め帰りの人ら行く裡に持つもの影に纏いて

植村 隆雄

「音」

田植え待つ神の水張田夕されば逆さ鳥居を深く宿して
満ちくるは心地よきかな十三夜の月の若さが庭木を照らす

奥村 秀子

「白南風」

冬の田に出でて啄む雉一羽望遠レンズの中に見飽かず
赤蛙の生るる池とふぶるぷると青み帯びたる卵魂揺るる

栗林喜美子

「高嶺」

往来の途絶えたる時橋桁の歪みかすかに戻れる気配
秋分の故郷の浜の砂あそび足裏にかすか温みのありて

中本 吉昭

「水甕」

草丈にかがまる身めぐり揚羽蝶寄りては離れる馴れなれしげに
痛めたる膝を診られる診療室主治医は靴の足癖を診る

吉保 佳子

ふるさと文化講座

「ふるさと福岡人物伝」

～幕末・明治の先駆者たち～

平成二十七年年度の県民文化大学は

四月十六日から一年間、近代日本の黎明期をリードした思想家を取り上げる「知の巨人たち」シリーズⅡ、

と、郷土福岡がらみのさまざまな分野の先駆者を中心に「ふるさと福岡人物伝」の二シリーズを行う。



足田啓佑 講師

梅蔵から白石まで

前年度に続く「知の巨人たち」シリーズⅡの講師は、福岡女子大名誉教授、足田啓佑さん。商人道の開祖、石田梅蔵を皮切りに、経世済民

を实践した新井白石で締めくくる。

望東尼、白蓮も

「ふるさと福岡人物伝」第一回は、(株)ことほぎ代表取締役、白駒妃登美さんが登壇、野村望東尼と幕末の志士たちを語る。このあと尊皇攘夷の真木和泉守、女流歌人の柳原白蓮、黒田藩家老の加藤司書、女傑高場乱と玄洋社、など多彩に展開する。

九月に伊藤伝右衛門邸など飯塚方面、十一月に筑後方面へ現地探訪を予定している。

受講料は一回千円。会場は福岡市天神のアクロス福岡二階セミナールーム。毎月第三木曜日に「知の巨



石瀧豊美 講師



白駒妃登美 講師



古賀透 講師



吉田洋一 講師



水原道範 講師



宮嶋玲子 講師



河村哲夫 講師



竹川克幸 講師

県民文化大
受講生

官兵衛の中津城を探訪



中津城を前に記念撮影に収まった受講生たち。中央が竹川講師

NHK大河ドラマ「軍師官兵衛」も終盤に入った平成二十六年(二〇一四)の十一月、県民文化大学ふるさと講座の受講者一行が、筑前入城前に官兵衛が豊前中津に築いた居城、中津城を訪ねた。

人たちは午前十時半から、「ふるさと福岡人物伝」は午後一時からそれぞれ九十分。「知の巨人たち」は八月は休講。

申し込みは

福岡県文化団体連合会事務局

☎ 092-643-2875

FAX 092-643-2876

へ。定員締切。

平成27年 県民文化大学

「知の巨人たち」シリーズⅡ

「知の巨人たち」シリーズⅡ

アクロス福岡2階セミナー室 10:30～12:00

「ふるさと福岡人物伝」

アクロス福岡2階セミナー室 13:00～14:30

日程	テーマ		テーマ	講師
平成27年 4月16日(木)	「石門心学」と呼ばれる 日本の商人道の開祖	いしだ ばいがん 石田 梅巖	野村望東尼と幕末の志士たち	(株) ことほぎ 代表取締役 白駒 妃登美
5月21日(木)	但馬聖人と称えられ庶民 教育に一生を捧げた儒学者	いけだ そうあん 池田 草庵	筑後久留米藩 真木和泉守	久留米大学文学部 准教授 吉田 洋一
6月25日(木)	公武合体思想で維新成立に 貢献 維新の十傑の一人	よこい しょうなん 横井 小楠	女流歌人 柳原 白蓮	ちくほう地域研究会 会長 宮嶋 玲子
7月16日(木)	「報徳思想」を説き、農村復興 政策を指導した農政家で思想家	にのみや ぞんとく 二宮 尊徳 (二宮金次郎)	石炭・炭鉱王 伊藤伝右衛門	日本経済大学 経済学部 講師 竹川 克幸
8月20日(木)	休 講		維新の影の立て役者 黒田藩家老 加藤 司書	福岡地方史研究会 会長 石瀧 豊美
9月17日(木)	終生仕官せず、私塾で弟子を 育成した忠義を尽くす朱子学者	あさみ けいさい 浅見 綱斎	女傑 高場乱と玄洋社の人々	福岡地方史研究会 会長 石瀧 豊美
10月15日(木)	博学者羅山の究めた思想 朱子学の発展の基礎を築く	はやし らざん 林 羅山	国学者 伊藤常足と弟子たち	日本経済大学 経済学部 講師 竹川 克幸
11月19日(木)	朱子我を欺かず、門人六千人 に及ぶ厳格なる朱子学者	やまさき あんさい 山崎 闇斎	八女近代教学の祖 江崎 済	福岡県文化団体連合会 調査役 古賀 透
12月17日(木)	人生を終えるまで道を求め 続けた闇斎の一番弟子	さとう なおかた 佐藤 直方	からくり儀右衛門 田中 久重	久留米市文化財保護課 事務主査 水原 道範
平成28年 1月21日(木)	西郷隆盛も心酔、志に 生きた幕末の陽明学者	かすが せんあん 春日 潜庵	幕末柳川藩家老 立花耆岐と志士たち	福岡県文化団体連合会 参与 河村 哲夫
2月19日(金)	儒学者の枠を超えた 学問の広さ、深さを持つ	おきゅう そらい 荻生 徂徠	横地玄蕃助と志士たち	福岡県文化団体連合会 参与 河村 哲夫
3月17日(木)	「正徳の治」をすすめ、経世済民 の思想を実践した合理主義者	あらい はくせき 新井 白石	広田彦磨と志士たち	福岡県文化団体連合会 参与 河村 哲夫

神の島「沖ノ島」 世界遺産登録目指し



安部龍太郎さんの文化講演会は、アクロス福岡四階国際会議場で開き、二百五十人が聴講した。



安部さんは、写真家藤原新也さんと渡ったのはじめ三度、訪れた経験もまじえて、沖ノ島や宗像一族が

安部龍太郎文化講演会 林田スマさんと「魅力」対談

玄界灘に浮かぶ孤島「沖ノ島」の世界遺産登録を目指して県文連は三月六日、直木賞作家安部龍太郎さんの「神の島『沖ノ島』を語る」文化講演会を開いた。また、福岡文化連盟も安部さん原作の、沖ノ島を主舞台とする歴史ロマンを舞台化し十二月に博多座で上演する。沖ノ島は、平成二十一年（〇九）にユネスコの世界遺産暫定リストに記載されて、本登録も間近と機運が盛り上がっており、福岡県と「宗像・沖ノ島と関連遺産群」世界遺産推進会議が強力に進めている。

大陸、朝鮮半島との古代の交流で果たした役割を浮き彫りにし、島の世界遺産指定に期待をこじませた。講演では、奥八女生まれの生い立ちや図書館司書をやめて小説家の道に入り、直木賞を獲得するまでの苦難も、ユーモア交じりに語った。

第二部は、大野城まどかびあ館長の林田スマさん（県文連副理事長）と対談。安部さんは「沖ノ島は巨岩の文化。国宝の中には、のどから手が出そうな奈良三彩の器も」と言い、質問に応じて「古代の環玄界灘世界には、宗像―沖ノ島、唐津―朝鮮南部の二つのルートがあった、と

思う」などと語った。

宗像大社の、葦津権宮司も壇に上がって「沖ノ島に女性は渡れないと言われるが、男性も、普段はほとんど渡れない。安部さんも本の企画があって特別に渡れた。では、どうやって沖ノ島を感じるかだが、神宝館の国宝を見ていただくと、いろんなものが見えてくる。8万点もの国宝から、想像力を広げ、いろんな歴史を想像していただきたい。」と話した。

最後に、「沖ノ島で、航海の安全を祈ること、神に対する祈りは、この時代、現代より強いと感じる。しかし、現代でも神さまに向き合うことは益々重要になってくる。人間の最大の欠点は敵意と我欲を自分でこ

ントロールできないこと。そんな人間を救うのは信仰心だろう。それは自分だけが救われるのではなく、地球を救うことに繋がっている。人間を超えた何者かに対する『敬意と信頼』の象徴が『沖ノ島』であり、沖ノ島は日本ばかりか世界の宝になるのではないかと、会場は大きな感動に包まれた。



福岡文化連盟

安部さんの原作をコラボ劇に 12月博多座上演

小説

『遣隋使の女神』

福岡文化連盟は、沖ノ島をテーマとする安部龍太郎さん原作の歴史roman『遣隋使の女神』を、コラボレーション劇に仕上げ、今年十二月二十三日、博多座上演する。

『遣隋使の女神』は、この企画のため安部さんが執筆、昨年十二月号から『オール読物』に連載した小説。これを脚本化し、演劇と和洋の音楽、舞踊などが多彩に融合するコラボレーション劇に仕上げる。

聖徳太子が派遣した西暦六〇七年の第二回遣隋使をめぐる波乱万丈の歴史ドラマで、沖ノ島の祭神をいた

だき女界灘に君臨する宗像海人族の姫と新羅の若者との恋を描きながら、宗像族が卓越した航海術を駆使して遣隋使を成功に導く物語。

福岡文化連盟は二〇一一年に博多の豪商・神屋宗湛を描く『宗湛 SOTAN』、一三年に幕末の歌人・野村望東尼が主人公の『おもしろきこともなき世：おもしろく 望東尼』と題してそれぞれ、演劇と和洋の音楽、舞踊などを組み合わせたコラボレーション劇を発表してきた。

第三弾となる『遣隋使の女神』も、前二回と同様、脚本演出は田中はくどうさん、総指揮は舟越節さん（県文連特別個人会員）が担当する。

平成26年度 県民文化大学・特別講座
直木賞作家 安部龍太郎氏 文化講演会
「神の島『沖ノ島』を語る」



日時 平成27年3月6日(金)
14:00~16:30(13:30開場)
会場 アクロス福岡 国際会議場 4階
(福岡市中央区天神1-1-1)

11年「宗湛」13年「野村望東尼」に続く第三弾

第22回

ふくおか県民文化祭 2014

オープニング式典は中止

「第二十二回ふくおか県民文化祭2014」オープニング式典は台風接近で中止になり、予定されていたイベントが昨年十一月二十四日、宗像市の宗像オリックス・ハーモニーホールで行われた。

イントロダクションは、みあれ祭、沖ノ島の映像と三曲演奏。メインイベントの「姫神の宝物」は演劇、ダンス、コーラスなどの組み合わせによるコラボ劇で、出演した青少年たちは舞台を通して宗像の歴史と文化を広く内外に知ってもらおうと懸命だった。

イベントの狙いは、演劇を通して自分たちの郷土への愛と誇りを培うことで、引き続き「むなかたこども芸術祭」も多彩に繰り広げられた。



コラボ劇「姫神の宝物」

芸術体験講座10周年 累計297校で実施

プロのアーティストが学校で子どもたちと直接向き合う「芸術体験講座」は、ふくおか県民文化祭2014で発足十周年を迎え、県内の中学校、特別支援学校など二十九校で行った。

ジャンルは伝統芸能、ダンス、音楽、演劇、邦楽、総合芸術などで、プロの芸術集団十五が参加した。この十年間で講座の実施校は計二百九十七校にのぼる。



ふれあいコンサート実行委員会



和楽ユニット「奏」



久留米連合文化会日本舞踊



山崎笙山 宮本直美

はぐくもう 文化の和

合言葉に 多彩に にぎやかに



松本清張・原作「わるいやつら」演劇公演



福岡Ⅰブロック 芸術文化のつどい



県民茶会



筑後地区中学校連合音楽会

22市町で46事業 協賛事業を含め 38万人が感動

「はぐくもう 文化の和」をテーマに、第二十二回ふくおか県民文化祭2014は、昨年十月から十二月末まで、全県下二十二市町で四十六事業を多彩に繰り広げた。観客、入場者総数は推定三十八万人。

分野別団体が十事業、地域別団体が九事業で競演した。トップバッターは福岡Ⅱブロック「芸術の祭典 in 筑紫野」で、フィナーレは大濠公園能楽堂子ども能楽教室。

この間、北九州文化連盟が松本清

張生誕105周年記念「わるいやつら」演劇公演、筑豊ブロックが香春町民センターで「筑豊の民俗展」を開催したのははじめ、各イベントとも日頃の研鑽の成果を存分に発揮して、参加者を喜ばせていた。

このほか、県民文化祭協賛の特色ある県民文化創造事業で「遠の朝廷 太宰府く万葉への誘い」、「女流俳人 諸九尼生誕三百年」、「創作劇 井尻商店街物語PART2」などがあつた。

宇田川九産大教授

県文連理事長

「画業55年、退任記念展」



貫会長も会場訪問

県文連理事長の宇田川宣人九州産業大教授は、今年三月の退任に先立ち、二十六年十月十八日から九日間、福岡市香椎の同大学美術館で、退任記念展「画業五十五周年記念ぶつくれ橋からハートへ」を開催した。

「ぶつくれ橋」は、宇田川さんが、少年期を過ごした埼玉県岩槻市（現・さいたま市）で十五歳の春に、壊れた橋のシンプルな構成の美に魅かれて描いた風景画。

宇田川美術の原点となるこの作品から、現在、主要なモチーフとなっている「ハート」シリーズまで、代表作六十六点を展示した。

宇田川さんは東京芸術大学卒業。九産大に芸術学部が開設されて間も

ない昭和四十六年に着任。以来、画壇、教育界で活躍中の多くの人材を育てる傍ら、アジア美術家連盟日本委員会代表を務め、国際的な美術交流にも努めてきた。平成十三年から

三年間、同大学学長を務めた。また福岡文化連盟副理事長（現在は理事）などで文化界の発展にも尽くし、県文連理事長には二十四年に就任した。

末永直行さんに県地域文化功労者表彰

県文連の特別会員である末永文化振興財団の理事長、末永直行さんは

昨年十二月十五日、県庁特別会議室で、平成二十六年県地域文化功労者として表彰された。



末永さんは昭和二十七年から今まで西日本音楽協会会長を務め、幼児期の音楽教育など音楽文化の普及・育成に努める一方、私財を投じ末永文化振興財団を設立。末永文化センターを九州交響楽団の練習場として提供するなど地域文化の発展に尽くしてきた。

榊孝陽さん矯正管区長表彰

県文連特別個人会員で日本画家の榊孝陽さんが、約十二年間にわたって矯正施設で受刑者の美術指導を続けてきたことで、平成二十六年年度の福岡矯正管区長表彰を受けた。

ルで表彰式があった。

また榊さんは同月三日、弟の写真家、榊晃弘さんとともに平成二十六年年度の福岡市教育委員会表彰を受けた。

昨年十一月十三日、博多区のホテ

吉塚だより

ふくおか県民文化祭2014は、文化芸術の楽しさや素晴らしさ、そしてたくさんの方々の感動を人々の心に残し幕を閉じた。第二十二回目を迎えた今回は、「はぐくもう 文化の和」を大会テーマとして、地域別、分野別フェスティバルなど四十六の主催事業が開催され、世代や地域を超えた交流の輪、文化の和を一層広げた。毎年のごとく、各文化団体や市町村行政の皆さんの並々ならぬご尽力に心から感謝している。

各文化祭の見事なステージは感動の連続だった。オープニングイベントの振替公演として実現した「女神の宝物」は、宗像市内で活動するダンス、コーラス団体とコラボレーションした演劇。ユネスコの世界遺産登録を目指す「沖ノ島」をテーマとして、子ども達が素晴らしい演技を披露し、魅力たっぷりの舞台を繰り広げた。演技を終えた後の達成感に満ちた子ども達のまなざしは、地域文化の担い手としての自信があふれ、文化を繋いでくれるに違いないと嬉しい気持ちになった。

北九州市の「わるいやつら」演劇

文化の力

公演では、演劇力の高さを実感すると共に、「人間は、衣・食・住があれば生きていけるが、心豊かに生きるためには、芸術文化が重要。基本は地域文化であり、活動が活発になれば地域に潤いが生まれ、街の活性化に繋がる」という挨拶に、芸術文化に対する強い信念とさわやかな感動を覚えた。公演を終え、会場出口で観客の一人ひとりと握手を交わし、「観てくれてありがとう」ととても良かった、元気をいただいた」とそれぞれが言葉を交わすその表情には満足感が溢れていた。こうした感動と文化団体としての誇りが事業を継続していくエネルギーになっているのだろう。

少子高齢化のなかで、生活の質を高め、潤いと活力に満ちた地域社会の実現が求められている今日、芸術文化活動は大変重要だ。また、グローバルな世界の中で、外国人が感動し、世界の共感を得るのはやはり日本文化ではないだろうか。「文化の力」こそが、夢と希望と勇気をもたらす、平和を創り、心豊かな世界を創るものだと思う。

(井原)

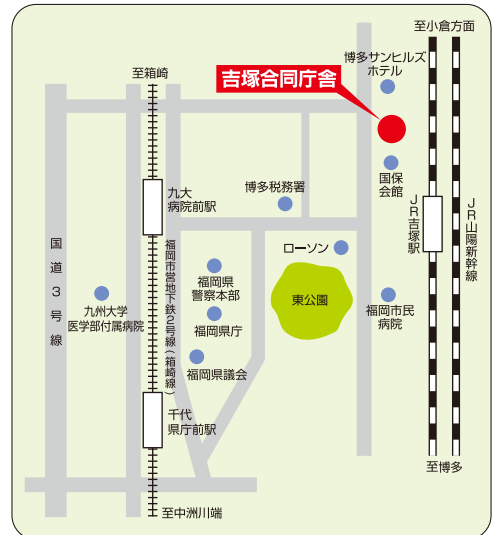
福岡県文化団体連合会

平成4年（1992）11月、県内で活動する地域別の文化団体67、分野別20の計87団体が参加して結成。16年秋には、県と協力して第19回国民文化祭ふくおか2004（愛称「とびうめ国文祭」）を推進、大成功を収めた。創立以来、毎年、県民文化祭を開催するほか、県民文化大学講座など独自の文化企画を展開している。現在は地域別71団体、分野別24団体、特別個人会員45名が加盟。末端会員は推定20万人。

県文連ふくおか 56号

発行 平成27年3月31日
 福岡県文化団体連合会
 専務理事 井原 絹江
 広報編集委員 古賀 透
 〒812-0046 福岡市博多区吉塚本町13-50
 TEL 092 (643) 2875
 FAX 092 (643) 2876

印刷 協文社印刷株式会社
 〒819-0001 福岡市西区小戸4丁目24-5
 TEL 092 (891) 0411(代)
 FAX 092 (891) 7288





福岡県文化団体連合会

賛助会員のご紹介

▼ 企業 団体会員

- (公財)アクロス福岡
- アジア美術家連盟 日本委員会
- 飯塚信用金庫
- (株)英進館
- (株)エルテックス・ヨシダ
- (有)海鳥社
- 九州電力(株)
- (公財)九州交響楽団
- (株)九電工
- 九州茶道文化交流協会
- 九州旅客鉄道(株)
- 九州・アジア文化芸術フォーラム
- 久留米運送(株)
- 西部ガス(株)
- (株)JTB九州福岡支店
- (株)如水庵
- 人生史サークル黄櫨の会
- (株)西日本シティ銀行
- 西日本鉄道(株)
- 西日本プラント工業(株)
- (公財)日本習字教育財団福岡事務所
- (株)日本旅行福岡支店
- (株)ピアノターミナル・ナカムラ
- 福岡県教育庁部課長会
- 福岡県教育庁参事・補佐会
- (株)福岡銀行
- 福岡空港ビルディング(株)
- 福岡県信用保証協会
- (公財)福岡県すこやか健康事業団
- (NPO)文化ボランティアとびうめの会
- (株)リーXML
- シニアライフカンパニー (50音順)

▼ 個人会員

- 唐川 茂樹
- 岡 征二

賛助会員の募集

福岡県文化団体連合会では、福岡県の文化振興並びに文化活動を側面から支援していただく企業及び個人の賛助会員（企業・団体1口：1万円、個人1口：5千円）を募集しています。この機会に、賛助会員として加入していただき、新たな県民文化創造へ継続的にご支援、ご参加くださいますようお願いいたします。

賛助会員に対する特典

- 1 会報「県文連ふくおか」の送付(年2回)
- 2 会報「県文連ふくおか」への賛助会員の掲載と紹介
- 3 その他、県文連主催行事、関係情報の提供

〈加入方法〉

福岡県文化団体連合会事務局

TEL.092-643-2875 に連絡ください。
 おって手続き書類をお送りしますのでよろしくお願いたします。